



(図 1) 三つの行動の経過

(4) 三つの行動体制の関連分析

図-1で明らかなように「手つなぎ」の増減と「失禁」「かみつき」との間は「正」と「負」の関係にあり、対称的である。

- (1) <2>~<7>までは、足のけがにより行動範囲も自然的に制限されたが、集団学習に参加せず、自由にひとり遊びができた時期である。
- (2) <8>~<13>は、運動会の練習期である。8, 9は雨天であり、負の行動も多いが、正の行動とつり合いがとれている。他に手つなぎや抱っこの要求を無視されたり、予期しないことへの強制行動をとられる等「満たされぬ自分」としての主張である発信行動がふえている。
- (3) <14><15>は歯科治療等で強制的に体をおさえこまれた時期であり、本児が納得しえない事態への心理的情緒不安や、過度の緊張を強いられたことによる頻尿と考えられる。
- (4) 「排尿行動」は「かみつき行動」より若干遅れてあらわれてきており、「かみつき」は欲求阻害への直接的対抗行動であり、「排尿」は、そうした生活を余儀なくされた心理状態の象徴としての、生理的反応行動と考えられる。
- (5) 以上のことなどから、三つの行動の変化を比較することで、本児のコミュニケーション手段や現

表 1 行動調整力を配慮した指導方法

項目	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
遊 び	○見あたらない。	○ごみいじり。 ○ひもやつみき等を振ったり投げたりする。 ○砂いじり。	○ブランコに乗る。 ○大型クッションに寝ころぶ。 ○高い所に登りその上を歩く。 ○トランポリンで跳ねる。	○探索行動 プレールーム 技術室、事務室 など ○自転車乗り。
行動のようす	○激しく泣く。 ○ころげまわる。 ○自分のほほをたたく。	○両ひざをかかえるよう座りこみ、指をよく動かす。 ○突然走り出したり、大声を出すことがある。	○遊具を使って遊ぶが、次々と遊びが移行していく。	○一つの遊具にかかっている時間が長い。
教師との関係	○介入ができない。 ○かみつきが多い。	○手を出しても、座わりこんだまま動作を続けている。	○手を差し出せば、手をつないで他の遊具に移る。 ○だっこやおんぶを要求する。	○遊びの困難が生じると教師と手をつなぎ、分化した要求を示すことが多い。 (自転車の方向をかえて等)
指 導 方 法	○行動の変換をともなう場面の交換。 ○食事・睡眠・発熱等生理的条件的確認。	○水をくんでやったり、泥団子を教師の手から持っていくようにするなど、教師の働きかけに注意を向けさせる。 ○トランポリンやグルグル回しなど、大きくゆり動かす遊びに誘いこむ。	○ほほをつけ、だっこ、おんぶなど、スキンシップを多く含んだ遊びをしながら、興味のある遊具を与える。	○自発的行動を妨げないように援助する。 ○状況に応じ、工夫したかわりをこころみる。

※印 行動段階はⅠ-Ⅳの順に、行動調整水準が高くなることを示す